

<p align="center">＜災害と助け合い＞</p> <p>日本でも梅雨末期の豪雨で多くの方が被災されました。復興には周囲の人々の助けが大きな力になります。途上国で日常的に見られる飢えや貧困の原因は、災害のようにはっきり見えません。助け合いの方法も簡単ではありませんが、あなたの手を貸してください！</p>	 <p align="center">2006年7月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
--	--	---

CMBからCMIP(Catholic Mission to the Indigenous People)へ

5月にCMBディレクター職に就いたファーディ神父から、CMB (Catholic Mission to the B'laans) の名称変更を申請中、というメールが届きました。ビラーン民族からカラガン民族、チボリ民族へと拡大した対象住民の実態に合わせて、**CMBのB (B'laan/ビラーン)** を、**IP (Indigenous People/先住民族)** に変更するというものです。現在CMBが支援する地域は約50コミュニティーで、ここ数年で5倍近くに増えています。

また、土地を奪われても法的手段に訴えるすべのない住民のために「正義と平和問題担当部署」を新設したという、ビラーン民族から初のディレクターとしての意気込みが伝わってくる報告もありました。



**CMBの新ディレクター、ファーディ神父と
ノシエート寮長のMSU4年生エドウィン**

私たちHANDSは「先住民族にキリストを伝える」ミッション(使命)を掲げるCMBと、「より貧しく虐げられた人々のために」という部分で理念を共有し、パートナーとして協力してきました。ほとんどが未就学という子どもたちや、病気の子どもを抱えて途方にくれる母親たちと出会い、日本の会員、市民の皆様の支援を届けてきました。

支援を待つ新しい住民たちとの出会いは、貧しいイスラム民族の村の医療衛生問題に取り組むパササンバオグループ(PIHS)の場合にもいえます。代表者ナブサさんの6月の定期報告には、要請を受けて新たに二つの村をPIHSの対象に加えたとありました。このようなことは、住民の土地権確立、組織化、アグロフォレストリーを推進するPPFでもあります。5月にPPFスタッフと訪ねたブハガン

(P3)も、チボリやマンボの人々が、有効な生計の手段を持たないままにわずかに残った原生林を焼畑農業で自ら破壊していました。持続可能なアグロフォレストリー支援が急務です。

このように、現地協力組織の活動範囲の広がりや連動して、私たちの支援対象も年々拡大しています。同時に、継続的に関わってきた村については、経済的自立に向けた実効ある事業を進めるため、「住民とともに」という従来十分でなかった部分に力を入れていきたいと思えます。奨学金によって高校、大学を終了した青年たちが、村で働きはじめた今がその好機です。

去る6月10日、私たちは偉大な先達を失いました。1979年にレイクセブでチボリ民族に出会い、2002年2月、病に倒れるまで先住民族の自立のため献身された藤原輝男氏(元山口大学教授)が逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げますとともに、先生が創設されたJOFPA及びFOTの元会員お2人からいただいた追悼の言葉(P6,7)の中に、一部事業を引き継いだHANDSへの助言を見出すことができたらと思えます。(山崎)